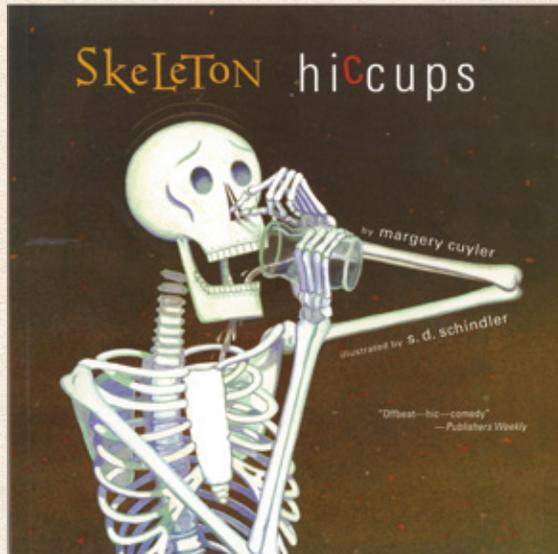


子どものための BOOK GUIDE
— 4 —



**SKELETON
HICCUPS**

著者：Margery Cuyler
イラスト：S.D.Schindler
出版社：Simon & Schuster

今回はガイコツ！ 表紙を見せるだけで、子どもに大受けすると思います。それに、最初から最後までずっと、hic hic hicです。しゃっくりです。しゃっくりが止まらないガイコツの悲劇。

シャワーを浴びてると、手からせっけんが飛び出すし、歯を磨いてたら、下あごが飛んでいくし、落ち葉を集めようとしても飛び散るばかり。そんなところに、友達の幽霊がやって来て、いろいろアドバイス。「息を止めてみて」といわれても、ガイコツだし。「砂糖を食べてみて」といわれても、こぼれるし。「目を押さえてみて」といわれても、目ないし。でも、最後は、“The hiccupS left.”よかった！

発想と絵の楽しさと、hic hic hicで読ませる絵本。教科書では教えない、主語省略形が多く、“Had the hiccupS.” “Took a shower.”と続きます。HeともSheともしたくなかったのでしょうか。かといって、全てThe skeletonにするとうるさいし。そのおかげで、絵本らしいリズムカルな文章に仕上がっています。

ざっと話の内容をつかんだら、細かいところも見ていきましょう。まず最初のページ。ガイコツのベッドの足のところにはコウモリ、頭のところにはR.I.P.これはRest In Peace(安らかに眠れ)という言葉と教えてもいいのですが、正しくはrequiescat in paceという同じ意味のラテン語です。ガイコツが自分の腕をみがくところでは、Ghost-White Bone Polish「幽霊みたいにまっ白に仕上がる骨磨き」のスプレー缶が置いてあります。

ほかに、nothing worked「全て役立たなかった」とか、got smart「はっと気がついた」(生意気なことをする、言うという意味もあるので要注意)とか、小学校の英語ではおそらく出てこない熟語もありますが、覚えておくと、案外と便利です。

そしてなにより、最後のページの、“They jumped away.”が決まっています。絵を見ながら、みんなで、Theyって？ と考えるのもおもしろそうです。この絵本に出きたのはガイコツと幽霊。誰か他にいましたっけ？

金原瑞人
かねはら・みずひと

岡山県生まれ。翻訳家、法政大学社会学部教授。法政大学文学部英文学科卒業後、同大学院修了。訳書は児童書、一般書、ノンフィクションなど500点以上。日本にヤングアダルト(YA)というジャンルを紹介。中学校英語教科書『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』(光村図書)の編集委員を務める。